

国宝 聖徳太子絵伝

秦致貞筆 平安時代 延久元年(1069) N-1



〈第10面〉



〈第9面〉



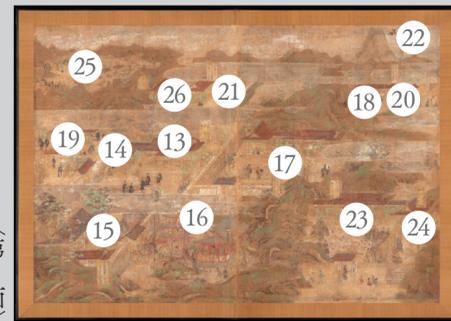
〈第8面〉



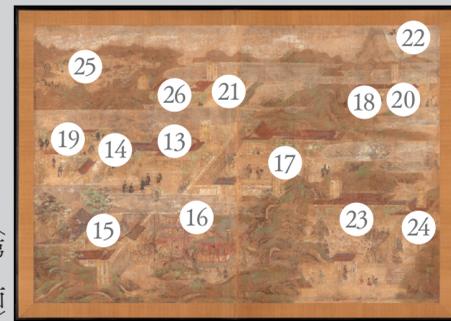
〈第7面〉



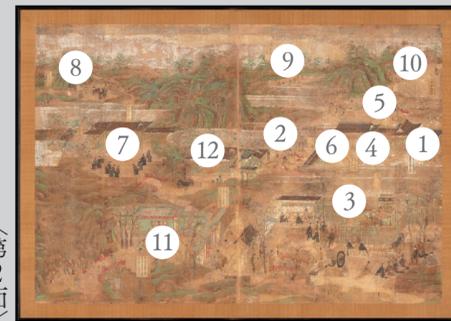
〈第6面〉



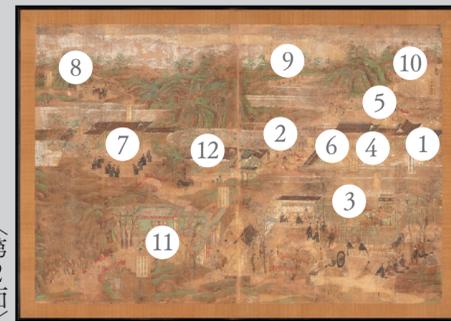
〈第5面〉



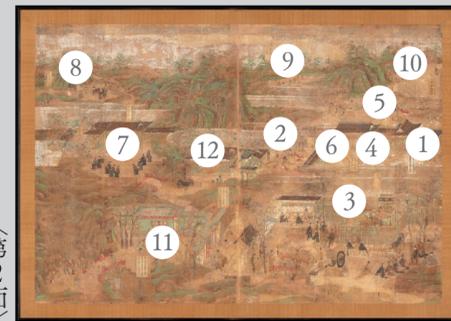
〈第4面〉



〈第3面〉



〈第2面〉



〈第1面〉

49 9歳

熒惑星があらわれ、天皇にその星の由来を説明する

50 12歳

難波館において百済国より来朝した僧日羅に会う

51 22歳

四天王寺を建立する

52 24歳

淡路島南岸に霊木が漂着する

53 36歳

小野妹子、隋の衡山にいたり三老僧に会う

54 37歳

魂を青龍車に乗せ、衡山へ前生所持の経を取りに行く

55 太子前世譚

六度生まれ変わり、三塔三石を立てる

56 太子前世譚

太子の前世である慧思と達磨和尚が問答し、その後達磨が東の空に去る

57 薨後2年

新羅・任那国の使いや中国僧が来朝して
仏像・仏舎利等を献ずる

41 16歳

排仏派の物部守屋と合戦する

42 18歳

牛飼いに穀倉の鍵を与える

43 33歳

山城楓野にあそぶ

44 37歳

夢殿において七日七夜の瞑想を行なう

45 48歳

椎坂山にのぼり本宮を望んで独謡する

46 50歳

斑鳩宮で后とともに薨去する

47 50歳

太子と后を科長陵に葬る

48 薨後22年

蘇我入鹿、太子の子孫を襲撃し、諸王子、
法隆寺五重塔より昇天する

27 17歳

百済国より仏舎利が献上され、各種の工人が来朝する

28 25歳

法興寺落慶、無遮大会(布施の儀式)を行なう

29 28歳

百済国、駱駝・驢・羊・白雉を献ずる

30 33歳

十七条憲法を制定する

31 36歳

小野妹子を隋の衡山に派遣する

32 37歳

妹子が衡山から持ち帰った手紙を読み火に投じる

33 37歳

隋使の裴世清等、微服(おしのび姿)の
太子に真人の気を感じて敬礼

34 40歳

勝鬘経義疏を執筆する

35 41歳

百済国の味摩之、伎楽を伝え、
桜井村においてこれを童子に習わせる

36 43歳

犬と鹿の争いを見て、
輪廻の苦しみ・宿業の深さを悟る

37 46歳

推古天皇に請われ、ふたたび勝鬘経を講ずる

38 48歳

摂津国から献上された人魚を禍のきざしと見る

39 49歳

宴を設けて群臣に物を与える

40 49歳

天に赤色の雲が現われ、太子や大臣はこれを怪しむ

13 6歳

大別王、経典や僧尼を百済国よりもたらす

14 10歳

蝦夷の侵攻について群臣が討議するのを聞く

15 13歳

蘇我馬子が百済国からもたらされた
弥勒菩薩像を安置する

16 14歳

排仏派の物部守屋等、宝塔や仏像を破壊する

17 16歳

用明天皇、病に伏し崩御する

18 17歳

崇峻天皇に傷害の相があることを占う

19 19歳

戴冠の儀式

20 21歳

崇峻天皇、献上された猪を見て、
馬子への殺意をもらす

21 21歳

蘇我馬子、慢心した東漢直駒を殺す

22 27歳

黒駒に乗って東国にあそび富士山頂を飛ぶ

23 35歳

勝鬘経を講ずると大蓮華が降るというめでたい
しるしがあらわれる

24 35歳

岡基宮において法華経を講ずる

25 40歳

兔田野で狩猟をする推古天皇に不殺生の
戒めを説く

26 43歳

病の蘇我馬子のために僧尼千人を出家させ、
自ら戒を授ける

1 入胎

母后、金色の僧を夢に見て太子を懐妊する

2 誕生

太子、厩前にて誕生

3 誕生

出産の祝宴である産養を行う

4 2歳

東にむかって合掌し、「南無仏」と唱える

5 3歳

桃の花よりも常緑の青松を賞賛する

6 4歳

すすんで父君皇子の叱りを受ける

7 5歳

群臣に先立って皇后(のちの推古天皇)を拜する

8 10歳

来寇した蝦夷を武力を用いずに鎮め、和をむすぶ

9 11歳

36人の童子の言葉を一度に聞きとる

10 11歳

空中を飛行するなど特殊な能力をしめす

11 26歳

百済国王の使者阿佐王子が来朝する

12 27歳

甲斐国より太子に黒駒が献上される